

令和 8 年度の雪対策の取組の方向性について

R7取組内容

1 除排雪事業の業務体制（持続可能な除排雪体制の構築）

（1）除雪センター機能の集約と充実

- ・市内 4 統合地区 4 統合除雪センター体制による業務体制で試行を実施
⇒統合についての問合せ等はなく、集約に伴う影響は特に確認されなかった

（2）除雪DXの推進

- ・積雪センサー等IoT機器による積雪状況監視・通報システムの運用(R7は12箇所増設)
⇒道路状況を携帯端末等で随時確認できる環境が整い、業務の効率化・省力が図られた

（3）除排雪作業における安全性向上の強化

- ・除雪企業所有の除雪グレーダ(13台)へ後方カメラやセンサー設置
- ・交通誘導警備員の配置強化や作業範囲の明確化による現場管理の強化
⇒除雪企業と十分に協議の上、排雪作業現場を確認するなど安全確保に努めた

2 路面管理対策（本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化）

（1）極端な気象状況に対する路面管理対策

12/20～21に気温上昇（最高気温7.1℃記録）

【予防的対応】生活道路の圧雪を取除く雪割作業実施

【情報発信】雪割作業などの状況をHPやSNSで発信

【計画的対応】生活幹線道路の排雪作業を一部前倒し

R6、7年度の改善要望(抜粋)

	改善要望 総件数	ザクザクで 走れない	ザクザク 要望割合
R 6 年度	8,419件	4,492件	53%
R 7 年度	5,322件	727件	14%

路面管理対策で改善要望の減

今後の方向性

◎持続可能な除排雪体制の構築

（1）除雪センター機能の集約と充実

- ・協議会でも取組にかかる意見はなく、
除雪企業を対象としたアンケートにおいても
悪いところはなかったとの回答が 8 割

取組を継続・検証しながら、
除雪DXの推進によるセンター業務の
効率化・省力化を検討

◎本市の実態に即した適切な路面管理手法の強化

（1）極端な気象状況に対する路面管理対策

【効果】

- ・取組がシーズンを通したザクザク路面对策
として効果的に感じた多くの肯定的意見
- ・除雪企業のアンケートにおいても約 8 割の
企業がザクザク路面の発生抑制を実感

本格運用に向け様々な気象状況での
各取組の継続・検証が必要

【継続にあたっての課題】

- ・ザクザク路面への改善要望は減ったが雪の
置き方に関する改善要望は増
- ・道路幅の狭小化、雪山の置き方など取組に
おける課題の市民周知の強化が必要
- ・気象状況や全体工程を踏まえた作業スケジ
ュールの構築が必要

ザクザク路面对策として、初冬期の雪割
作業など路面管理対策を継続・検証

市民の取組への理解度向上のため、
更なる情報発信の強化を推進
⇒広報誌やHPの充実、チラシの作成等

効率的かつ効果的な手法の検討
⇒長期予報などを踏まえ、状況に応じた
雪割作業や更なる排雪作業の前倒しの
検討・実施